

授業概要

科目名	失語症Ⅰ			授業の種類	講義	講師名	
授業回数	15 回	時間数	30 時間	1 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期
ST1 後期							
【授業の目的・ねらい】 失語症についての基礎的な知識を習得する。言語症状の把握と有効なコミュニケーション手段を考える。訓練技法や教材作成に興味を持ち、今後の失語症の授業及び臨床に役立てる。							
【実務者経験】 言語聴覚士として半田中央病院に勤務し、成人分野の急性期から慢性期までのリハビリに従事する。							
【授業全体の内容の概要】 脳の働きから言語機能を知り、失語症のタイプ分類・専門用語の把握・言語治療の方法について身につける。							
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 失語症者の立場になって心理・社会的背景を把握することができる。 専門用語の説明ができるようになる。							
回数	講義内容						準備物(教材)
1	失語症の定義や失語症と関係の深い脳の仕組みを理解できる						教科書 配布資料
2	失語症と関係の深い脳の仕組みを理解できる						教科書 配布資料
3	失語症の原因、専門用語、原発性進行性失語について理解できる						教科書 配布資料
4	ブローカ失語・ウェルニッケ失語について理解できる						教科書 配布資料
5	伝導失語・健忘失語・超皮質性運動失語について理解できる						教科書 配布資料
6	超皮質性感覚失語・混合型超皮質性失語・全失語について理解できる						教科書 配布資料
7	皮質下性失語・特殊な失語・純粹型について理解できる						教科書 配布資料
8	認知神経心理学モデルについて理解できる						教科書 配布資料
9	認知神経心理学モデルについて理解できる						教科書 配布資料
10	表層性失読、音韻性失読、深層性失読について理解できる						教科書 配布資料
11	失語症の評価、診断についての概要を理解できる						教科書 配布資料
12	鑑別診断、患者様との関わりについて理解できる						教科書 配布資料
13	病期別アプローチについて、小児失語症について理解できる						教科書 配布資料
14	訓練方法の概要について理解できる						教科書 配布資料
15	総復習						教科書 配布資料
	定期筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】 『標準言語聴覚障害学 失語症学 第4版』医学書院							
【準備学習・時間外学習】 授業で行う内容の予習・復習を行ってください。							
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施し、60点以上の場合に科目を認定する。							